

## 私が広島で感じたこと

糸魚川中学校 2年3組 長内 夏依

私たちは8月5日、6日、7日の3日間、自国で起こった悲劇と今の平和を学ぶために広島に行ってきました。私が今回、広島に行って3日間いろんなところに行き、お話を聞いたり、資料を見たりしてきた中で、特に思い出に残っていることは被爆者、両親のどちらかが被爆者の原爆後に生まれた子供の被爆者二世の方々のお話です。そのお話は、研修を通して、いろんなところでのキーワードとなっていました。その方々の話を聞く場が設けられていましたが、そこだけではなく、平和記念式典のビデオ映像、平和記念資料館などでも聞くこと、見ることができました。その方々には共通したお話がありました。それは「また同じことを繰り返してはならない。そのためにこの歴史をもっとたくさんの方に伝えていかなくてはならない。」ということでした。

日本が終戦しても世界各国では、今現在も戦争が行われています。そんなニュースを見ていると、その時の光景を思い出してしまい、とても悲しく、悔しく思うそうです。悲しく思うのは、戦争の罪の重さを理解していない人がいることで、悔しく思うのは、戦争での失われる命を思うからだそうです。肉体的に負う傷もあれば精神的に負う傷もあり、どちらの傷も生涯消えることはないということも学びました。

私たちは2日目の最後に、平和への願いを込めた灯籠流しを行いました。灯籠に願いを書いたのが、被爆者二世の波田保子さんのお話を聞いた後だったこともあり、真剣に願いを考えることができました。その未来が明るいものにな

---

るように明るい色を使って書き上げ、その日の6時近くに橋に行きました。少しずつ流れる量が増えていく灯籠を見ているのはとても楽しくて、灯籠はカラフルで、見ていてとっても綺麗でした。橋にはたくさんの方がその光景を見に来ていました。集まっていた人たち全員が流れる灯籠を見ながら平和を願っていたと思います。灯籠流しを見ていた時、その場にいた人たちの思いが一つになっていたと思います。

最後に今回の広島派遣、とても有意義なものになりました。企画して下さった皆さん、引率して下さった皆さん、お話を聞かせて下さった皆さん、ありがとうございました。たくさんの人を悲しませ、苦しめる戦争の恐ろしさを再確認してきました。これからの将来を担っていく身として、今の日本の平和を守っていきたい、そのために体験してきたことをできるだけ多くの人に伝えていきたい、そう考えています。

---